

おい図書館

No. 217

発行 代表
青木 和子
松本市役所の康 104-416
TEL 047-311-0886

投稿

北の国から
こんにちはいく!



秋田在住 木村真喜子

会報212・213号では、浦安市立中央図書館の報告をありがとうございました。

2017年、長野県塩尻市立図書館の見学会を最後に、秋田に移住し、皆さんの活動を読むだけになってから3年目になります。

会報211号の「松戸の図書館が相模台辺りに出来た」の「し」の声もあるとの一文に、一気に10年前の東北大震災・福島第一原発過酷事故が起きた2011年3月11日の相模台の

中央公園に、記憶がフラッシュエバックしました。

その日、丁度、JR松戸駅東口にあるイトーヨーカ堂5階の時計売場の前を歩いていました。後ろでパタツと何かが落ちたので、振り向いた途端に、激しくぐらぐらと揺れ始めた。血相変えて中央公園側出口に向かい、外に出て走りましたが、目の前の道が大蛇の背中のように傾き、上へ下へとアップダウンして、走っているのに前へ進まないのです。

たどり着いたのは相模台の中央公園でした。直後はまばらだった公園も、時間が経つにつれて人が溢れて来ました。

その間にも何回も地震があり、眼下に並んで見えるマンションが右に左に揺れ、その度に部屋の中にある家具が動き回り、ゴアーツという音が聞こえて来るのです。下校時間と重なり、高校生も増えて来て、キヤーツと泣き出す女子高生や様々な悲鳴で公園がいっぱいになりました。

新京成線の入口のシャッターが閉められたと、駅に居た人達も中央公園に登って来ました。その中で、友人のバレーグラデシユからの留学生一家の父子にも遭遇しました。恐怖と不安の中で彼らの心配は、都心に居る母親の事でした。夕方、暗くなる前に、彼らを連れて会社の同僚の車で常盤平にたどり着いたものの、母親と連絡がとれたのは2日後でした。

その後、松戸市役所前に、福島からの避難者を乗せたバスが所狭しと到着しました。放射能検出も

心配な中、市役所前で水を配るにも、市役所への急な階段を登り下りするにも、災難の中での更に災難は光景でした。

現在の私の関心事(趣味?)は、地方の町の歴史と地形を知るといふ事が加わり、「スリバチ学会」(注)スリバチ地形の町を歩き回り、土地の高低が教えてくれる町の成り立ちの面白さを知る)の人達と町歩きをしています。その活動の中で、さすがに地層・地形を無視した町づくりは防災に弱い事が分かりました。

この経験から考えても、新しい松戸市立図書館を駅に近い高台の相模台に移すというのは良い選択ではないかと思えます。

災害時のハザードマップを考え、ても合理的・機能的であり、かつ図書館が近くにあれば、心の安らぎも持てることでしょう。実際に

東北大震災の時は、高台にあった図書館は、本棚が倒れて本が散乱していても、住民たち自身が付けた、貴重な避難所となりました。そして、「身近に本が有るので、精神的にも救われた」といふ声が多数聞かれたそうです。図書館の大切な役割を再認識させられるという現象がみられたのです。

より良い図書館を求めて活動を続ける皆さんのご健闘を、北の国から祈っています。



市長、教育長、図書館長

と面談しました

報告 青木和子
6月30日(水)に本郷谷市長との面談、7月1日(木)には伊藤教育

長との面談が実現し、「松戸市立中央図書館についての要望書」をお届けしました。「おいしい図書館」からは、大石、菊地、堀、青木が伺いました。

今年12月には東松戸複合施設が開館するのに伴って、2階建て施設の一階部分の大半を占める「東松戸地域図書館」が開館します。私達が最も待ち望んでいる中央図書館については、まだ明確な形が見えていませんので、目の前に迫っている東松戸地域図書館開館に向けての具体的準備などに話は進みました。

東松戸地域図書館については、現場のお話を聞き、要望書届ける必要性を感じました。東部分館から東松戸への移転作業で大忙しの図書館ですが、村上図書館長との面談が実現し、お話を伺い、要望書をお届けしました。(9月29日(水)、齋藤補佐と渡部専門監が同席。)

松戸市立中央図書館建設についての要望書

—(略)—

さて、私たち「おい図書館」は松戸市長期総合計画に盛り込まれておりました、市立中央図書館建設の実現を願い、平成5年(1993年)から活動を続けてまいりました。

様々な紆余曲折を経て、平成27年(2015年)5月、松戸市図書館整備計画審議会において「松戸市図書館整備計画」が策定されました。

松戸市立図書館が目指すべき素晴らしい図書館像が示され、拝読した私たちの期待は大きく膨らみました。

一昨年(2019年)11月の明市民センター新築移転に伴って移転した図書館分館は小さいながらもとても利用し易くなったと好評です。

そして昨年(2020年)の9月定例市議会において、東松戸地域図書館を含む東松戸複合施設建設計画は最終的に議決され、市議会閉会後に工事に着手、今年(2021年)12月の開館に向けて、現在建設工事が進んでいることを大変嬉しく思います。

しかし、今、最も必要とされるのは約50万人の松戸市民のニーズに応え得る中央図書館です。「文化都市松戸」を目指し、近隣の人々をも惹き付けるような魅力を持った図書館の実現を願って止みません。

「新拠点ゾーン整備基本構想」は、平成26年(2014年)に立ち上げた諮問機関「松戸駅周辺まちづくり委員会」において審議され、松戸駅東口の高台にある官舎跡地や松戸中央公園等を一体開発することで、新たな松戸の顔となる新拠点ゾーンを整備するという基本方針が示されました。あわせて市民の様々な活動をサポートする複合施設(文化・子育て・教育など公共公益的な施設)を整備する方針を示されました。

速やかに市議会の賛同を得て、計画が実現されんことを切に願っております。

1. 上記「松戸市図書館整備計画」に則り、新しい中央図書館開館に向けて、今から人材育成に努めることが大切と思います。
そのためには、県内外の先進的な図書館との人材交流等も是非、実現して下さい。

2. 新しい中央図書館建設に向けて「(仮)図書館建設準備室」をできるだけ早い段階で設置してください。

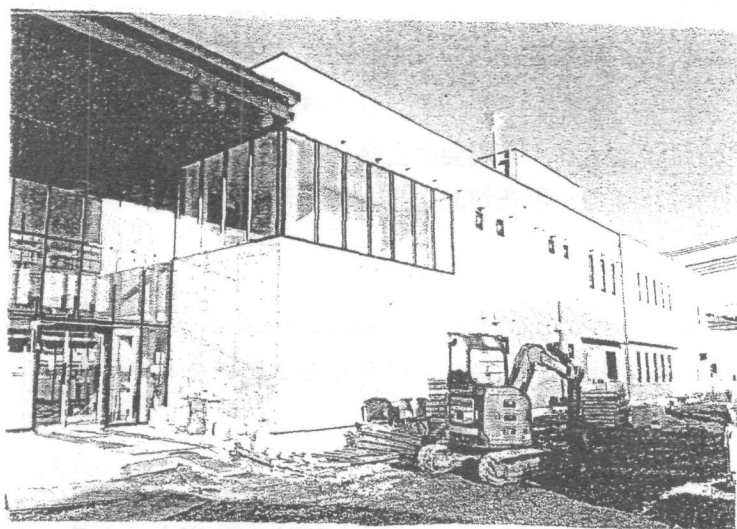
その構成メンバーとしては、実力を備えた図書館の専門家に加わって頂くように要望します。

また、一般市民が「自分たちの図書館」として誇りを持って大切に思えるように、公募委員の参加が不可欠と思います。

私たちは、新しい中央図書館の完成に至る過程を、図書館建設応援団として注目してまいります。

これからも市におかれましては、できるだけ詳しい広報活動を継続的に行って下さいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上



1階部分の殆どは
東松戸地域図書館です。

東松戸複合施設
ひがまつテラス

9月5日撮影



次の会報には、
工事が殆ど終了した「ひがまつテラス」
の写真が掲載できると想います。
開館は12月19日(日)の予定です。
楽しみにしてくださいね！